

して推進していく。

「えひめ町並博」について。①町としてどのような指導を行ったか。②今後の取り組みとして、指導、関わりをどのようにするのか。

町長 ①住民や団体が取り組んだ自主イベントに対しては、県町並博実行委員会と町が連携し、広報宣伝、専門家によるアドバイスなど、今後とも継続した活動が展開できるよう支援するとともに、経費への助成措置を実行した。

②町並博イベント終了後の17年度からは今年度設立された「南予広域連携観光交流推進協議会」が町並博の取り組みを引き継ぐことになり、鬼北町もその協議会の一員となつていたので、先に国から指定を受けた「観光交流空間づくりモデル事業」を活用し、南予地域の広域的な観光振興という方向で取り組みを進めていく所存である。また、今後においても旧広見町、日吉村で行われていた地域の特色あるイベントの継続、拡充や、住民グループの自主的な取り組みに対して、広報宣伝のためのネットワークづくりなどこれまでの活動をフォローしていきたいと考えている。

鬼北町の情報を広く町外に発信するためにも、住民の皆さんの積極的なイベントへの参加を促進し、都市と農村との交流の更なる推進と定着を図り、地域の活性化に努めていきたいと考えている。

〈防災について〉

自主防災組織の結成に向けて取

り組む考えは無いのか。

町長 大規模災害が発生すると、救援要請の増加や交通事情の悪化などによって、防災関係機関が災害現場に到着するまでかなりの時間を要する場合があります。このような時、隣近所の人と協力し合い、組織的に行動することにより、災害を最小限に食い止めることが重要になつてくる。

自主防災組織は、地域住民が「自分たちのまちは自分たちで守る」という連帯感に基づいて、自主的に結成される組織のことである。災害に遭遇した時、消防団のOBの方はもとより、その地域に住む人たちがそれぞれのノウハウを出し合いながら、お互いが気心の知れた連帯感のある人たちが構成された組織であり、加えて地理的特性など地域の実情に合わせた役割を迅速に行える組織が最も災害に強い「自主防災組織」ではないかと考えている。

当町においては、自主防災組織づくりの普及啓発を16年度の一区長・組長会において資料等を配布・説明し、その結果、16年度中に旧広見町・旧日吉村にそれぞれ1地区ずつの自主防災組織が設立された。また、現在17年度の設立に向けて検討を行っている団体も1地区ずつあると聞いている。

災害に遭遇した時、少しでも被害を食い止めるため、それぞれの地域において住民の防災意識の高揚に向けた啓発と、自主防災組織の必要性の喚起に努める所存である。

☆ 17年度の新区長さんを紹介します ☆

近永地区		好藤地区		愛治地区		泉地区	
牛野川	宇都宮 勇	成 藤	片岡 美憲	大 宿	岡本 秀和	出目一	二宮 哲也
水分	星野 仁	国 遠	佐々木幹夫	生 田	清家 志郎	出目二	二宮 康好
北 川	松浦 睦夫	年 則	高田 弘	清 水	芝 義久	興野々	池田 靖
成 川	兵頭 重樹	清 延	井上 博	畔 屋	山本 守	岩 谷	池下 康幸
今在家	岡村 豊	柏 田	川添 長期	西野々	芝 亨	上 川	堀 敬洋
奈良中	竹田 幸男	沢 松	二宮 浩			小西野々	甲岡 正男
奈良下	武田 正史	平井中	上甲 正輝	三島地区		小 倉	芝 博之
中野川	北川 三郎	田 丸	酒井 一男	広 見	高田 良宗	日吉地区	
芝	中井 啓介	沖	横山 忠人	下大野	芝 嘉也	父野川	伊野 光広
永野市	富永 正男	小 坂	坂本 久義	小 松	松浦 正美	上大野	船本 常雄
新 町	都留 正志	東 仲	井上 静雄	久 保	片岡 好文	下鍵山	竹本 芳泰
本 町	内藤 美治	西 仲	善家 厚	延 川	河野 壽則	上鍵山	熊本 忠眞
南 町	二宮 吉弘	吉 波	入山 謙	川 上	瀧谷 保徳	日向谷	山本 健介
栄 町	須藤 和幸						
旭 町	平山 久則						